

新市建設計画策定に向けて

一宮市・尾西市・木曾川町

一宮市・尾西市・木曾川町合併協議会

も く じ

新市建設計画の基本的な枠組み・・・・・・・・・・

1 新市を取り巻く環境・・・・・・・・・・

2 2市1町のまちづくりの動向・・・・・・・・・・

3 新市建設の基本方針・・・・・・・・・・

4 新市の施策・・・・・・・・・・

5 公共施設の適正配置と整備・・・・・・・・・・

6 財政計画作成方針・・・・・・・・・・

新市建設計画の基本的な枠組み

計画の位置付け

新市建設計画は、一宮市、尾西市及び木曾川町の合併後のまちづくりの方向性（マスタープラン）を定めるとともに、その実現を図ることにより旧2市1町の速やかな一体性の確立及び地域の個性を活かした均衡ある発展と住民福祉の向上を図ろうとするものです。

なお、新市の進むべき方向についてのより具体的な内容は、新市で策定する総合計画（基本構想、基本計画）などに委ねられます。

計画の構成

この計画は新市のまちづくりのための「基本方針」、また、これを実現するための新市の根幹となる事業を取りまとめた「施策・主要事業」、「公共施設の統合整備」及び「財政計画」を中心に構成します。

計画の期間

この計画の計画期間は、合併年度及びこれに続く10年間とします。

1 新市を取り巻く環境

(1) 人口・世帯

地域の現状・将来見通し

【人口】2市1町の人口は約36万人（平成12年国勢調査）で、平成7年と比べて2.5%の増加となっている。また、中核市の人口要件を満たしている。

【年少人口】少子化が進む中、15歳未満の人口は、平成2年の6.3万人から平成12年には5.7万人に減少している。現在の傾向が続くと、平成32年には4.5万人まで減少するものと見込まれる。

【高齢者人口】65歳以上の高齢者は増加傾向にあり、人口に占める割合は、平成12年の14.7%から平成32年には26.9%に上昇し、超高齢社会の到来が見込まれる。特に、75歳以上の後期高齢者人口は、今後、加速度的な増加が見込まれる。

高齢者人口の割合... 7%～：高齢化社会 14%～：高齢社会 21%～：超高齢社会

【世帯の状況】世帯数は約12万世帯で、1世帯あたりの人員は3.07人と、名古屋市を除く愛知県平均（2.95人）と比べて高い。また、高齢単身世帯の割合は4.2%で、愛知県平均（4.8%）と比べると、若干低い水準にある。

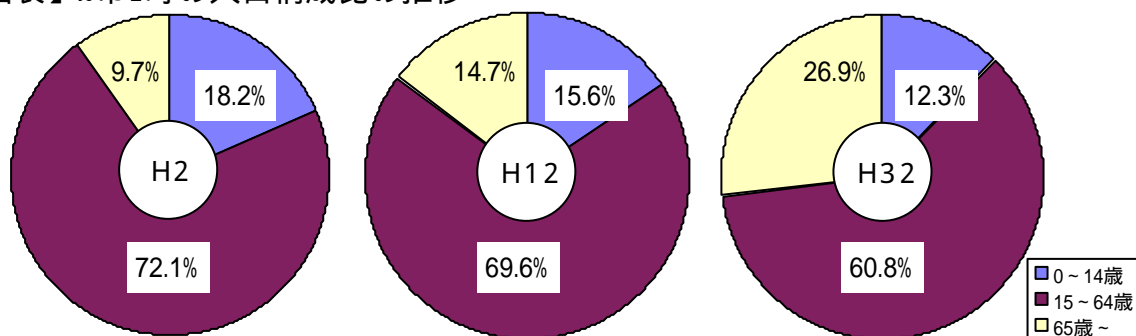
【図表】人口・世帯の状況

市町村	総数 (人)	対H7 伸率 (%)	男 (人)	女 (人)	世帯数 (世帯)	平成12年10月1日現在	
						高齢単身 世帯数 (世帯)	高齢単身 世帯割合 (%)
一宮市	273,711	2.4	134,012	139,699	89,984	3,887	4.3
尾西市	57,956	1.5	28,241	29,715	18,122	744	4.1
木曽川町	31,059	5.2	15,220	15,839	9,975	363	3.6
2市1町合計	362,726	2.5	177,473	185,253	118,081	4,994	4.2

資料：総務省「平成12年国勢調査」

注) 世帯数は総数（一般世帯と施設等の世帯の合計）。

【図表】2市1町の人口構成比の推移



注) 年齢不明は除く。

平成2, 12年は実績値。平成32年は、コーホート要因法による推計値。

【図表】年齢区分別人口・構成比の推移

2市1町合計		H2	H7	H12	H17	H22	H27	H32
人口	0～14歳	62,890	57,320	56,730	56,466	54,353	49,567	44,814
	15～64歳	250,149	254,769	252,633	245,397	235,852	225,759	220,856
	65歳以上	33,597	41,890	53,174	67,056	80,844	93,645	97,645
	うち75歳以上	13,044	15,977	19,774	25,849	33,688	42,745	51,362
合計		346,972	353,999	362,726	368,919	371,049	368,971	363,315
構成比	0～14歳	18.2%	16.2%	15.6%	15.3%	14.6%	13.4%	12.3%
	15～64歳	72.1%	72.0%	69.6%	66.5%	63.6%	61.2%	60.8%
	65歳以上	9.7%	11.8%	14.7%	18.2%	21.8%	25.4%	26.9%
	うち75歳以上	3.8%	4.5%	5.5%	7.0%	9.1%	11.6%	14.1%

資料：総務省「国勢調査」等

【参考】全国・愛知県人口の将来推計

全国						愛知県					
	H12	H17	H22	H27	H32		H12	H17	H22	H27	H32
0～14歳	18,505	17,727	17,074	16,197	15,095	0～14歳	1,086	1,067	1,032	962	887
15～64歳	86,380	84,590	81,665	77,296	74,453	15～64歳	4,934	4,856	4,703	4,506	4,415
65歳以上	22,041	25,392	28,735	32,772	34,559	65歳以上	1,024	1,236	1,470	1,720	1,812
うち75歳以上	9,012	11,422	13,792	15,735	17,666	うち75歳以上	395	510	643	776	921
合計	126,926	127,708	127,473	126,266	124,107	合計	7,043	7,159	7,205	7,188	7,114
0～14歳	14.6%	13.9%	13.4%	12.8%	12.2%	0～14歳	15.4%	14.9%	14.3%	13.4%	12.5%
15～64歳	68.1%	66.2%	64.1%	61.2%	60.0%	15～64歳	70.1%	67.8%	65.3%	62.7%	62.1%
65歳以上	17.4%	19.9%	22.5%	26.0%	27.8%	65歳以上	14.5%	17.3%	20.4%	23.9%	25.5%
うち75歳以上	7.1%	8.9%	10.8%	12.5%	14.2%	うち75歳以上	5.6%	7.1%	8.9%	10.8%	12.9%

資料 国立社会保障・人口問題研究所 都道府県の将来推計人口(平成14年3月推計)

注) 年齢不明は除く。平成2～12年は実績値。平成17～32年は、コーホート要因法による推計値。

人口推計の方法(コーホート要因法)

- ・コーホート要因法とは、同年又は同時期に出生した人口集団(コーホート)を単位として、将来変化を推計する方法である。
- ・例えば、ある地域の20～24歳の人口集団は、5年後には25～29歳の集団となるが、5年間の変化(増減)は、「死亡数」と「移動数」によって生じる。
- ・この死亡数と移動数をコーホートごとに仮定し、将来的な人口の推移を推計している。

【推計の前提条件】

出生率、生残率、出生性比...国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成14年1月)」における仮定値を使用。出生率は中位推計を適用。

純移動率...愛知県人口動向調査、国勢調査から性別・年齢別の移動人口、純移動率を推計。

地域特性のまとめ

2市1町においても、全国、県と同様に少子高齢化の進展が見込まれる。
世帯あたりの人員、高齢単身世帯(独居老人)の比率から、3世代同居の割合が高いと推定される。

課題と対応方向

子育て支援などの少子化対策の推進
地域特性に応じた、超高齢社会に対応した行政サービスの提供

(2) 生活圏

地域の現状・将来見通し

【通勤・通学】尾西市、木曽川町では通勤・通学者の過半数が市町外に流出しているが、通勤・通学先としては一宮市の割合が高く、一宮市を中心とした通勤・通学面での結びつきが伺われる（2市1町内就業率：60.0%）。その他の地域としては、名古屋市、他県への流出割合が高い。

平成2年と比較すると、各市町の自市町内就業率、一宮市を通勤・通学先とする割合は低下しており、一宮市の中心性は弱まる傾向にある。

【商圈・買物】一宮市の地元購買率は、尾張地域の他都市と比較しても高いが、尾張西部では、近年、稲沢市の吸引力が強まっている。以前は、2市1町に祖父江町を含む形で一宮商圈を形成していたが、現在は2市1町のみへと縮小傾向にある。現在、尾西市は稲沢市の商圈にも属している。また、木曽川町では地元大型店の立地により自町内の購買率が高まっており、商圈としての一体性は維持しつつも、一宮市の吸引力は低下傾向にある。

【図表】通勤・通学の状況

平成2年

	常住就業者・通学者（人）							
	総数	自市町村	他市町村	名古屋市	一宮市	尾西市	木曽川町	他県
一宮市	159,717	94,940	64,777	26,354		4,531	1,869	7,476
		59.4%	40.6%	16.5%		2.8%	1.2%	4.7%
尾西市	35,313	19,086	16,227	4,223	5,783		358	1,524
		54.0%	46.0%	12.0%	16.4%		1.0%	4.3%
木曽川町	17,630	7,336	10,294	2,758	3,198	678		1,652
		41.6%	58.4%	15.6%	18.1%	3.8%		9.4%
2市1町	212,660	137,779	74,881	33,335				10,652
		64.8%	35.2%	15.7%				5.0%

平成12年

	常住就業者・通学者（人）							
	総数	自市町村	他市町村	名古屋市	一宮市	尾西市	木曽川町	他県
一宮市	156,970	86,292	70,678	25,835		4,342	1,986	9,004
		55.0%	45.0%	16.5%		2.8%	1.3%	5.7%
尾西市	33,981	15,607	18,374	4,287	6,102		429	2,108
		45.9%	54.1%	12.6%	18.0%		1.3%	6.2%
木曽川町	17,886	6,268	11,618	2,973	3,492	701		2,026
		35.0%	65.0%	16.6%	19.5%	3.9%		11.3%
2市1町	208,837	125,219	83,618	33,095				13,138
		60.0%	40.0%	15.8%				6.3%

資料：総務省「国勢調査」

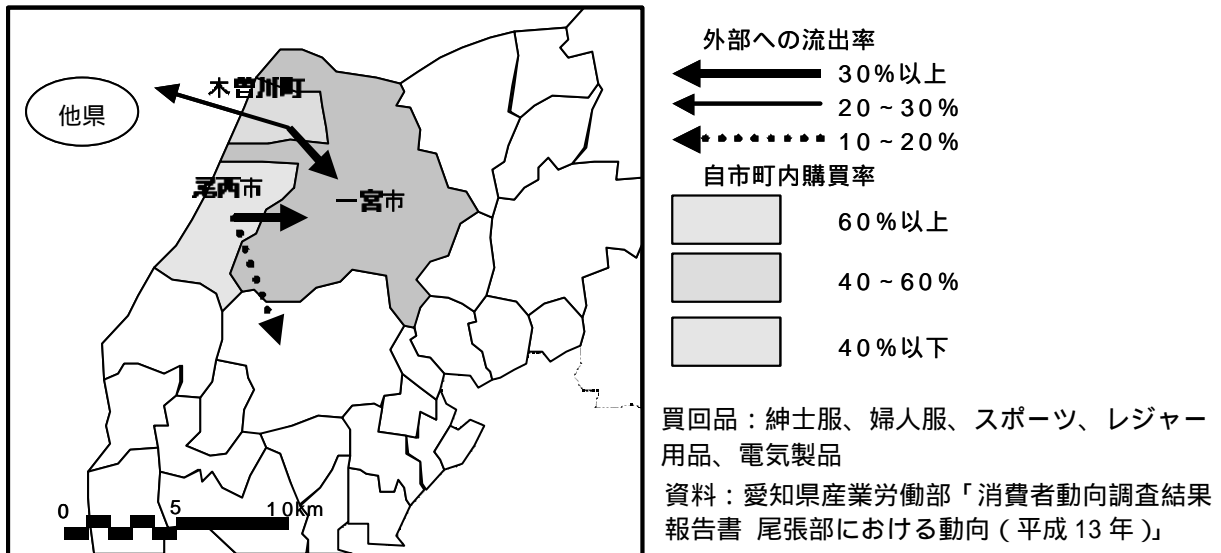
注) 表中%は、常住就業者・通学者総数に対する通勤・通学先の割合を示す。

【図表】一宮市の吸引力の推移

	買回品		準買回品		最寄品		贈答品	
	尾西市	木曾川町	尾西市	木曾川町	尾西市	木曾川町	尾西市	木曾川町
平成3年	24.5	42.7	16.0	31.7	8.3	16.6	34.6	39.9
平成6年	23.4	47.0	15.8	34.5	11.7	23.6	33.8	46.8
平成9年	26.4	48.3	18.6	37.5	11.7	25.2	43.1	53.4
平成12年	26.3	34.6	13.4	23.8	14.8	11.9	35.3	38.3
伸び率 (H12/H3)	107.3%	81.0%	83.8%	75.1%	178.3%	71.7%	102.0%	96.0%

資料)消費者購買動向調査報告書(平成13年)

【図表】買物(買回り品)の状況



地域特性のまとめ

2市1町の地域的な結びつきは、他地域と比較して強い。しかし、尾張西部の拠点都市としての一宮市の求心力は低下傾向にある。

課題と対応方向

住民生活の広域化、地域の結びつきに即した行政サービスの提供
 地域の一体性を支える道路・交通ネットワークの充実
 地域活力の維持向上に向けた、一宮市の拠点性向上

(3) 地勢・自然特性

地域の現状・将来見通し

【位置・地勢】愛知県の北西部に位置し、地勢的にはきわめて平坦な地形を持つ。2市1町の北西は、延長約18kmにわたって木曾川に囲まれている。

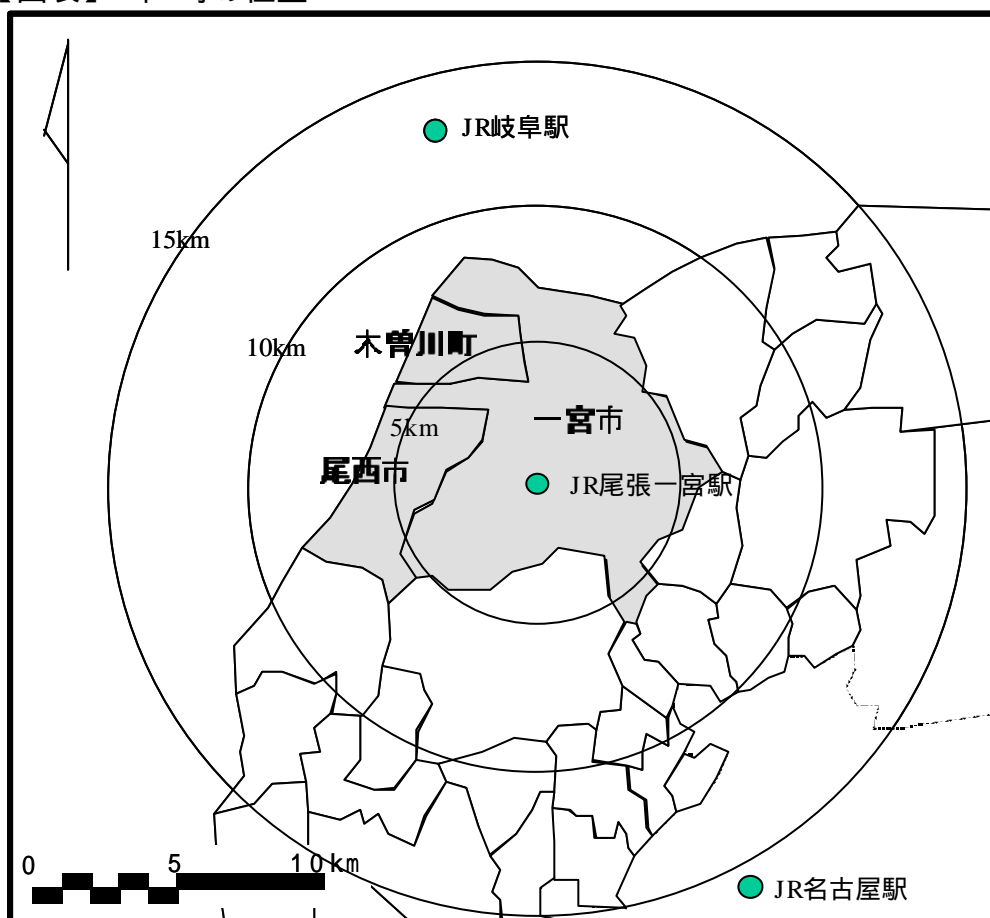
濃尾平野のほぼ中央、名古屋市と岐阜市の中に位置し、恵まれた自然環境と良好な立地条件を有する地域である。

【面積】2市1町の面積は11,391haで、県内では、新城市、瀬戸市とほぼ同じ大きさであり、中核市の面積要件（人口50万人未満の場合）を満たしている。

【土地利用】面積の3割を農用地が占めている。地域には、国営木曾三川公園三派川地区（138タワーパーク）など自然環境を活かした交流・レクリエーション空間が整備されている。

【自然災害】東海地震の地震防災対策強化地域には指定されていないが、東南海・南海地震や内陸部の直下型地震など様々な可能性が想定される中、地震に対する十分な防災対策が求められる。また、過去の風水害状況から治水面での対策も重要である。

【図表】2市1町の位置



【図表】2市1町合計面積の県内ランク

平成12年10月1日現在

面積県内ランキング (ha)	
1	名古屋市 32,645
2	豊田市 29,011
3	鳳来町 26,366
4	豊橋市 26,126
5	岡崎市 22,697
6	設楽町 22,083
7	足助町 19,327
8	額田町 16,027
9	東栄町 12,340
10	豊根村 12,113
11	新城市 11,794
12	作手村 11,740
13	下山村 11,418
14	2市1町 11,391
15	瀬戸市 11,162
16	稲武町 9,863
17	春日井市 9,271
18	安城市 8,601

資料：県土地水資源課「土地に関する統計年報」

【図表】地目別土地利用面積

単位 ha

平成13年	行政面積	農用地	森林原野	河川水路	道路	宅地	その他			その他
							(住宅地)	(工業用地)	(その他宅地)	
一宮市	8,239	2,570	-	634	1,455	3,179	2,250	163	766	401
	(100.0%)	(31.2%)	-	(7.7%)	(17.7%)	(38.6%)	(27.3%)	(2.0%)	(9.3%)	(4.9%)
尾西市	2,201	654	-	372	324	812	533	70	209	39
	(100.0%)	(29.7%)	-	(16.9%)	(14.7%)	(36.9%)	(24.2%)	(3.2%)	(9.5%)	(1.8%)
木曽川町	951	222	-	185	158	362	243	23	96	24
	(100.0%)	(23.3%)	-	(19.5%)	(16.6%)	(38.1%)	(25.6%)	(2.4%)	(10.1%)	(2.5%)
2市1町計	11,391	3,446	-	1,191	1,937	4,353	3,026	256	1,071	464
	(100.0%)	(30.3%)	-	(10.5%)	(17.0%)	(38.2%)	(26.6%)	(2.2%)	(9.4%)	(4.1%)
愛知県	515,478	85,332	220,881	24,127	44,298	87,819	51,406	13,174	23,239	53,021
	(100.0%)	(16.6%)	(42.8%)	(4.7%)	(8.6%)	(17.0%)	(10.0%)	(2.6%)	(4.5%)	(10.3%)

資料：愛知県企画振興部土地水資源課「土地に関する統計年報」

地域特性のまとめ

大都市近郊にありながら、木曽川に代表される豊かな自然資源と田園的な生活環境を兼ね備えている。

課題と対応方向

水環境、緑を生かした豊かな住環境と潤い空間の整備
 交流・レクリエーション空間としての木曽川の活用
 広域的な治水・防災活動体制の確立

(4) 産業経済

地域の現状・将来見通し

【産業構造】毛織物産地として繊維産業を中心に商工業が発展。近年は第2次産業の比率が低下し、第3次産業の占める割合が高まっている。

【工業】事業所数、従業者数で繊維が占める割合は高いが、近年は一般機械、電気機械の割合が増加。2市1町合計の製造品出荷額等は、県内15位に相当する。

【商業】繊維工業を中心とする卸売業と、門前町として発展してきた中心市街地の小売業を中核に、尾張西部最大の商業地として発展してきた。現在も、年間販売額（卸・小売業計）は2市1町合計で県内5位に相当するが、国道22号沿線を始めとする郊外店舗の立地、稲沢市の商圈拡大等によって、一宮市の商業拠点性は低下傾向にある。

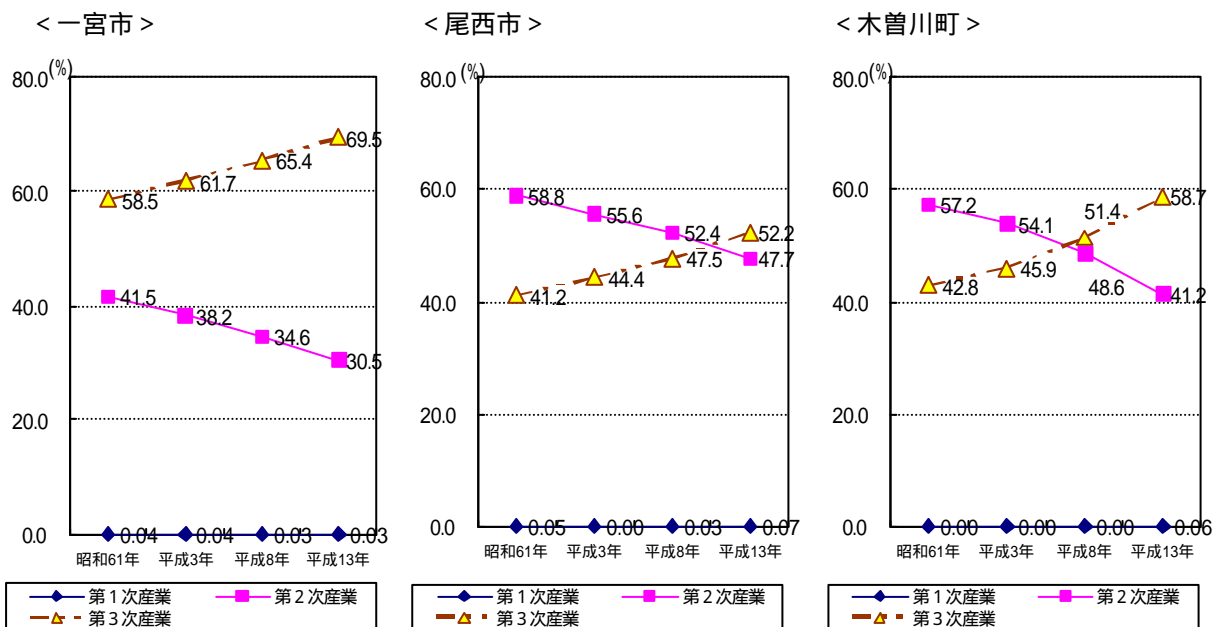
【図表】産業大分類別就業者数

平成12年10月1日現在

就業者数	昭和55年(1980)				平成12年(2000)			
	総数	第1次産業	第2次産業	第3次産業	総数	第1次産業	第2次産業	第3次産業
一宮市	121,508	5,187	55,938	60,329	141,831	2,354	52,635	84,665
尾西市	27,588	1,216	15,766	10,599	30,831	605	13,764	16,337
木曾川町	13,784	269	7,934	5,573	16,289	121	6,902	9,188
2市1町合計	162,880	6,672	79,638	76,501	188,951	3,080	73,301	110,190
愛知県	3,048,896	166,269	1,292,074	1,588,973	3,687,238	109,181	1,360,214	2,192,586
全国計	55,811,309	6,110,987	18,737,426	30,901,357	62,977,960	3,172,509	18,571,057	40,484,679
構成比	総数	第1次産業	第2次産業	第3次産業	総数	第1次産業	第2次産業	第3次産業
一宮市	100.0%	4.3%	46.0%	49.7%	100.0%	1.7%	37.1%	59.7%
尾西市	100.0%	4.4%	57.1%	38.4%	100.0%	2.0%	44.6%	53.0%
木曾川町	100.0%	2.0%	57.6%	40.4%	100.0%	0.7%	42.4%	56.4%
2市1町合計	100.0%	4.1%	48.9%	47.0%	100.0%	1.6%	38.8%	58.3%
愛知県	100.0%	5.5%	42.4%	52.1%	100.0%	3.0%	36.9%	59.5%
全国	100.0%	10.9%	33.6%	55.4%	100.0%	5.0%	29.5%	64.3%

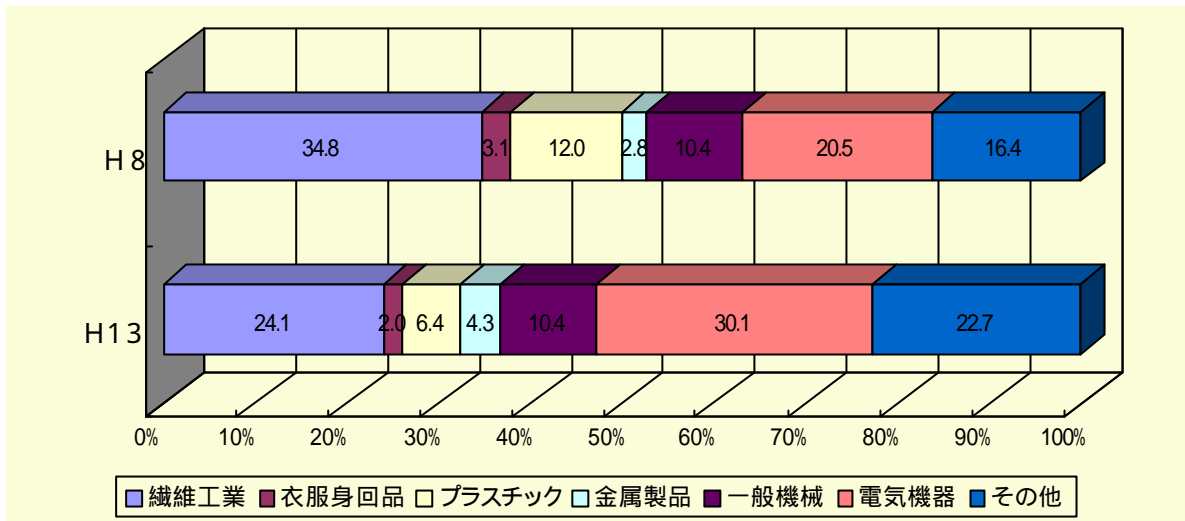
資料：総務省「平成12年国勢調査」

【図表】産業別事業所数割合の推移



資料：事業所統計

【図表】2市1町合計の製造品出荷額等の推移（構成比・金額）



単位：百万円

製造品出荷額等	総額	繊維工業	衣服身回品	プラスチック	金属製品	一般機械	電気機器	その他
平成8年	749,094	260,669	23,453	90,244	20,797	77,682	153,713	122,536
平成13年	660,618	159,180	12,976	41,975	28,662	68,951	199,100	149,773

資料：愛知県企画振興部統計課「あいちの工業」

【図表】商業の状況

平成14年6月1日現在

		卸売業・小売業合計		
		事業所数	従業者数 (人)	年間商品販売額 (万円)
1	名古屋市	38,731	348,381	2,904,708,922
2	豊田市	2,799	25,256	149,030,179
3	豊橋市	4,942	35,812	114,755,146
4	岡崎市	4,171	30,429	106,498,010
	2市1町	4,214	28,111	91,810,173
5	一宮市	3,354	22,845	79,025,707
	：	：	：	：
31	尾西市	523	3,088	9,051,060
	：	：	：	：
52	木曾川町	337	2,178	3,733,406

資料：愛知県企画振興部統計課「平成14年商業統計調査結果速報」

地域特性のまとめ

繊維産業と電気・機械のシェアの逆転。
サービス産業化が急速に進展。

課題と対応方向

繊維産業を中心とする地場産業の活性化
既存産業の高度化と新規産業の育成・立地誘導
商店街など地域商業の活性化
市民生活の向上と経済活性化に資する都市型サービス業・都市型産業の振興

(5) 都市基盤

地域の現状・将来見通し

【交通基盤】鉄道（JR・名鉄）、高速自動車道（名神高速道路、東海北陸自動車道）のインターが立地し、広域交通の結節点にある。

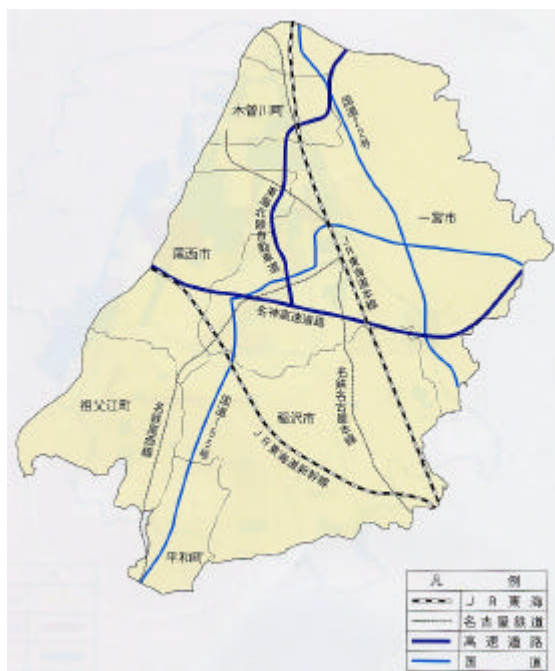
【都市計画区域】全域が都市計画区域に含まれている。市街化区域は約3割であるが、市街化調整区域にも集落・DIDが広く分布し、多数の住民が居住している。

【人口集中地区（DID）】昭和35年時点では2市1町に散在していたが、現在は2市1町に連担して広がっており、行政面積の4割強がDIDとなっている。平成7年からの伸びは1.1%と、県水準（2.4%）と比べ緩やかである。

人口集中地区（DID）：人口密度の高い（人口密度1km²あたり4,000人以上）国勢調査区が隣接している人口5,000人以上の地区。

【生活基盤】下水道の普及状況は一宮市36.4%、尾西市及び木曽川町0%、地域全体では24.9%となっている。一宮市域のみにおいて、1,111haの土地区画整備事業が認可されており、そのうち982haが整備済みである。

【図表】交通基盤の状況



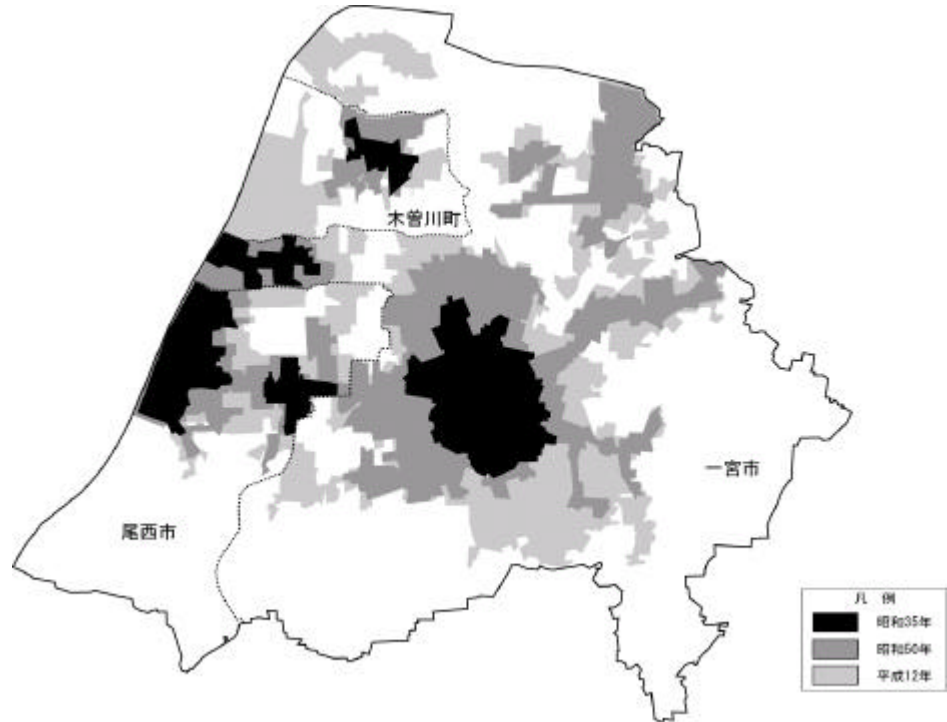
【図表】都市計画区域の状況

	行政面積 (ha)	人口密度 (人/km ²)	人口集中地区		都市計 画区域 (ha)	面積 (ha)		人口密度(人/km ²)		人口密度伸率(%)	
			面積 (ha)	人口 (人)		市街化 区域	調整区域	市街化 区域	調整区域	市街化区域 (H14/H9)	調整区域 (H14/H9)
一宮市	8,239	3,322	3,523	190,459	8,239	2,585	5,654	5,725	2,349	5.3	0.2
尾西市	2,201	2,633	829	37,790	2,201	723	1,478	6,017	1,719	22.5	13.9
木曽川町	951	3,266	500	22,248	951	494	457	5,651	853	-7.9	29.9
2市1町合計	11,391	3,184	4,852	250,497	11,391	3,802	7,589	5,771	2,136	6.4	2.7
豊橋市	26,126	1,397	4,662	256,696	26,126	6,174	19,952	4,713	408	6.6	8.8
岡崎市	22,697	1,483	4,705	246,992	22,697	5,741	16,956	5,208	264	-1.4	10.4
春日井市	9,271	3,102	4,553	250,156	9,271	4,569	4,702	5,419	991	5.6	-7.0
豊田市	29,011	1,210	4,010	231,334	29,011	4,918	24,093	5,124	422	4.9	-1.1

時点：都市計画区域 平成14年3月31日、その他は平成12年10月1日現在。

資料：愛知県企画振興部土地水資源課「土地に関する統計年報」、都市計画協会「都市計画年報」

【図表】DIDの変遷



資料：総務省「国勢調査（昭和35年、昭和50年、平成12年）」

【図表】生活基盤の状況

	下水道		都市公園			土地区画整理事業					
	処理区域 人口(千人)	普及率 (%)	箇所	面積 (ha)	1人当たり 面積(m ²)	認可済		施行中		換地処分済	
						件数	面積 (ha)	件数	面積 (ha)	件数	面積 (ha)
一宮市	91.39	36.4	100	132.28	4.71	13	1,111	3	129	10	982
尾西市	-	-	6	12.55	2.13	-	-	-	-	-	-
木曾川町	-	-	1	6.99	2.19	-	-	-	-	-	-
2市1町合計	91.39	24.9	107	151.82	4.09	13	1,111	3	129	10	982
豊橋市	259.59	72.8	333	345.04	9.46	26	1,727	3	67	23	1,661
岡崎市	166.60	49.6	196	348.20	10.35	37	1,666	6	176	31	1,491
春日井市	173.27	60.1	226	305.15	10.61	47	3,272	9	298	38	2,974
豊田市	157.56	46.0	136	380.40	10.83	27	1,075	7	290	20	785

資料：愛知県「愛知県都市公園現況」「土地に関する統計年報（平成14年）」下水道課資料
 時点：下水道は平成14年3月31日、都市公園は平成13年3月31日、土地区画整理事業は平成13年。

地域特性のまとめ

良好な交通条件を有し、広域交通基盤の結節点。
 生活基盤など都市基盤の整備水準は低い。

課題と対応方向

交通結節性を生かしたまちづくり
 地域内交流を活発にする道路・交通体系の整備
 生活基盤の充実・強化

(6) 歴史・文化

地域の現状

【歴史・沿革】

一宮市：尾張の国「一の宮」が真清田神社であったことから、その門前町が一宮と呼ばれる。大正10年市制施行により一宮市となり、昭和15年に葉栗村及び西成村と合併、昭和30年に近隣8町村が合併。

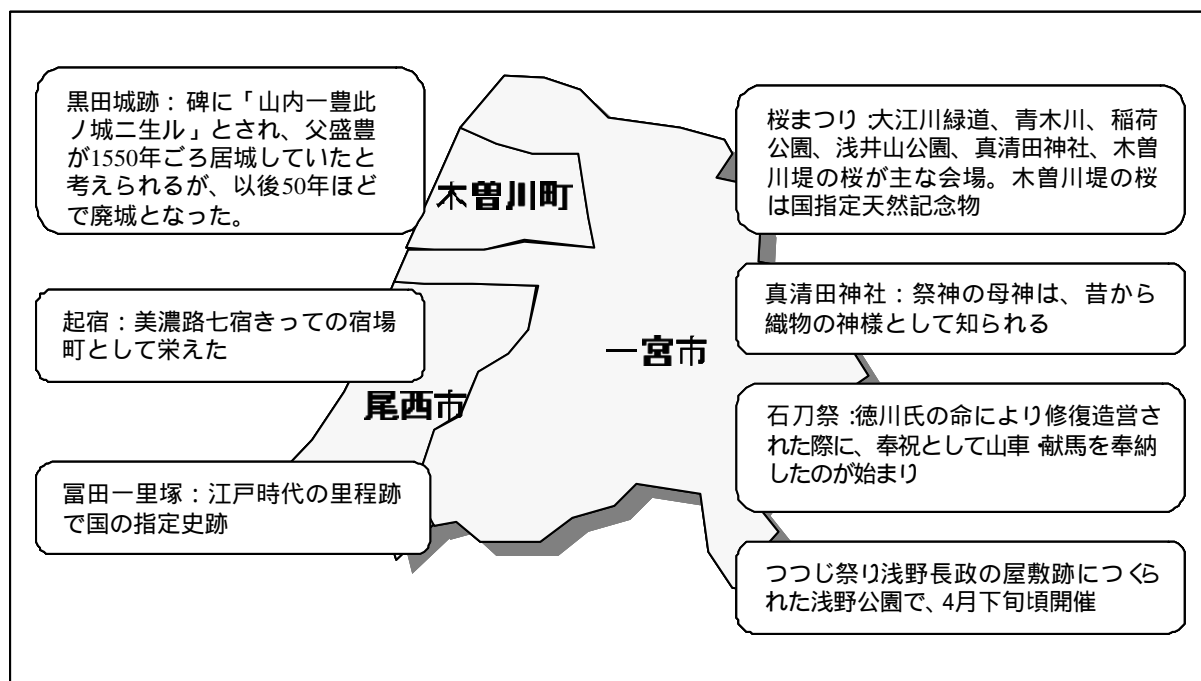
尾西市：昭和30年1月に起町と朝日村が合併し市制を施行、4月に今伊勢町の一部と合併。市名は古くからこの地方一帯を示す言葉である尾西（尾張西部）に由来。

木曾川町：明治39年に黒田町ほか2村が合併、明治43年に町名を木曾川町と定め、現在に至る。

【歴史・文化資源】2市1町には歴史、文化資源が豊富に存在。

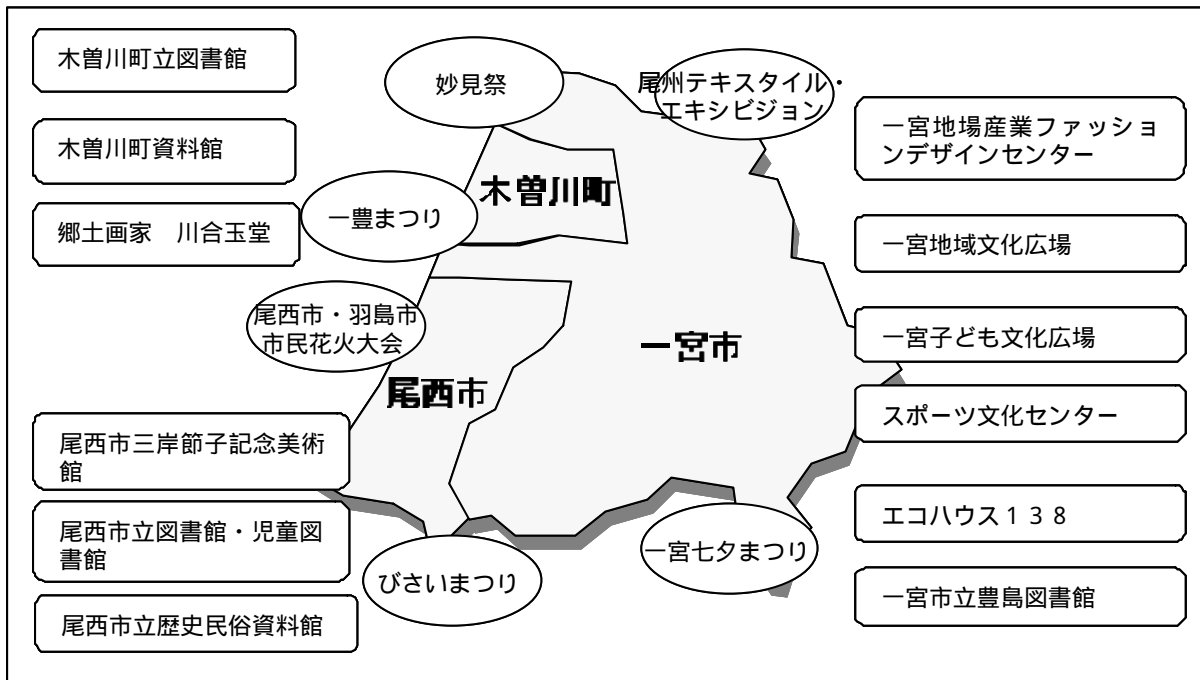
【文化施設】「一宮市民会館」「尾西市民会館」が立地している。また、図書館は合わせて4箇所、蔵書数は計69万冊である。博物館としては、「一宮市博物館」「尾西市歴史民俗資料館」が立地し、郷土の歴史、文化遺産を収集・展示している。

【図表】地域資源の状況（歴史・伝統）



資料：各市町ホームページ

【図表】地域資源の状況（文化・イベント）



資料：各市町ホームページ

【図表】文化施設の状況

平成14年3月31日現在

	公会堂・市民会館			図書館		
	箇所数	延面積 (㎡)	収容定数 (人)	箇所数	延面積 (㎡)	蔵書数 (冊)
一宮市	1	8,328	1,588	1	3,020	414,136
尾西市	1	3,870	1,050	2	2,111	215,149
木曽川町	-	-	-	1	2,379	57,325
2市1町	2	12,198	2,638	4	7,510	686,610
豊橋市	4	15,823	2,190	2	6,395	839,334
岡崎市	6	18,285	4,006.0	1	2,580.0	462,960
春日井市	2	6,370	1,653.0	1	10,966.0	646,059
豊田市	5	30,399	3,349.0	1	12,567.0	1,079,813

資料：愛知県総務部市町村課「市町村行財政のあらまし（平成15年1月）」等

地域特性のまとめ

地域の歴史、文化の蓄積が豊富。

課題と対応方向

歴史的・文化的資源の保全・継承と活用
多様な文化ニーズに対応した活動の場の提供

(7) 地域コミュニティ・市民参加

地域の現状・将来見通し

【ボランティア活動】平成15年に認証された4団体を含めて、現在、2市1町では7団体がNPO（特定非営利活動）法人として活動している。主な活動分野は保健・医療・福祉分野とする団体が多くみられる。

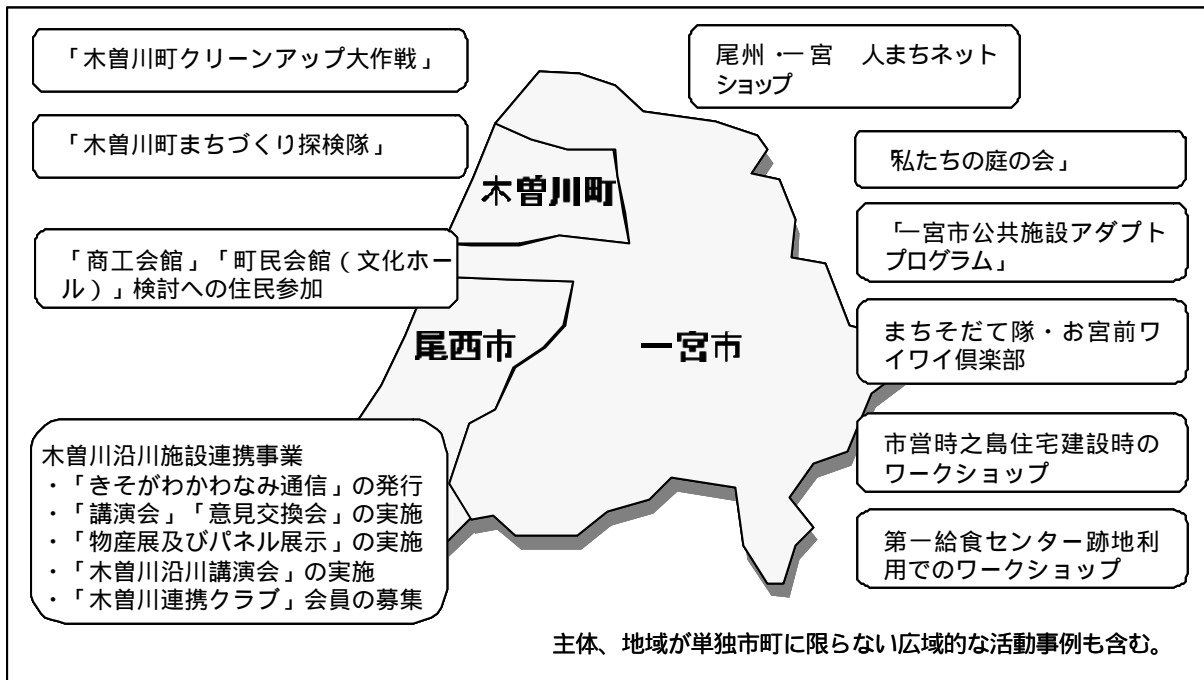
【市民参加】地域住民による身近なまちづくりの必要性が高まる中、道路・公園などの公共施設管理への住民参加や、住民が主体となつてのまちづくり活動、さらには事業計画策定にあたってのワークショップなど、様々な形で市民と行政の協働が取り組まれている。

【図表】NPO法人の状況

名称	主たる事務所の所在地	認証年月日	定款に記載された目的	主な活動分野
尾張地域福祉を考える会まごころ	一宮市貴船	H11.7.7	助け合いの心を大切にする市民とともに、高齢者や障害者、子どもたちが安心して暮らすために、福祉サービスに関する事業を行い、もって、福祉の増進と地域社会の発展に寄与し、社会全体の利益に貢献することを目的とする。	保健・医療・福祉
お達者クラブ	一宮市北神明町	H12.11.17	地域の人々が、年をとっても、病気になっても、障害をもっても、痴呆になっても住み慣れたところで多くの人々と関わりながらいつまでも安心して過ごしていくための福祉サービスの提供と、地域社会の中で、様々な価値観を尊重できるこれからの福祉社会を住民の人々と考え作り出し、よりよい市民社会に貢献することを目的とする。	保健・医療・福祉
ふれあいサロンさん・さんガーデン	一宮市北方町	H15.3.19	家族のような気持ちで、家族丸ごとの助け合いをスローガンに、少子・高齢社会の中ですべての年齢層の市民を対象に、助け合いの精神に基づいたふれあい社会づくりの目標をもとに、ともに協力・参加し合って福祉サービスを提供することによって、誰もが安心して暮らせる地域福祉社会を実現することをもって、社会全体の利益に寄与することを目的とする。	保健・医療・福祉
Expo Web TV	一宮市栄	H15.3.7	2005年日本国際博覧会（以下、愛・地球博）への参加を希望する幅広い市民に対して、愛・地球博の市民参加事業に関する情報を提供し支援すると共に、市民が自由に参加できるインターネット放送事業を行うことで、愛・地球博を支援し成功に寄与することを目的とする。	まちづくり
シニア・リンク	一宮市中町	H15.5.2	定年退職者および中高年における中途退職者等が、その蓄積した業務知識・ノウハウなどを活かして、充実した高齢期を迎えることができるように支援することを目的とする。	社会教育
V F	尾西市東五城	H15.4.10	スポーツに関する青少年指導者の養成・研修と同時に青少年育成のあり方についての調査研究などを通じて、青少年の育成基盤の整備を図ると共に、健全育成に寄与し、併せて高齢者・障害者の介護支援活動を行うことを目的とする。	子どもの健全育成
さわやかファミリーサポートセンター	木曽川町黒田	H14.5.31	家族のような気持ちで、家族丸ごとの助け合いをスローガンに、少子・高齢社会の中ですべての年齢層の市民を対象に、助け合いの精神に基づいたふれあい社会づくりの目標のもとに、ともに協力・参加し合って福祉サービスを提供することによって、誰もが安心して暮らせる地域福祉社会を実現することをもって、社会全体の利益に寄与することを目的とする。	保健・医療・福祉

資料：愛知県ホームページ

【図表】市民参加活動の状況



資料：各市町資料

地域特性のまとめ

住民参加を取り入れた、まちづくりが活発化。
木曽川という地域資源を活かした住民参加活動。

課題と対応方向

地域住民・コミュニティと行政の協働によるまちづくり

(8) 行財政運営

地域の現状・将来見通し

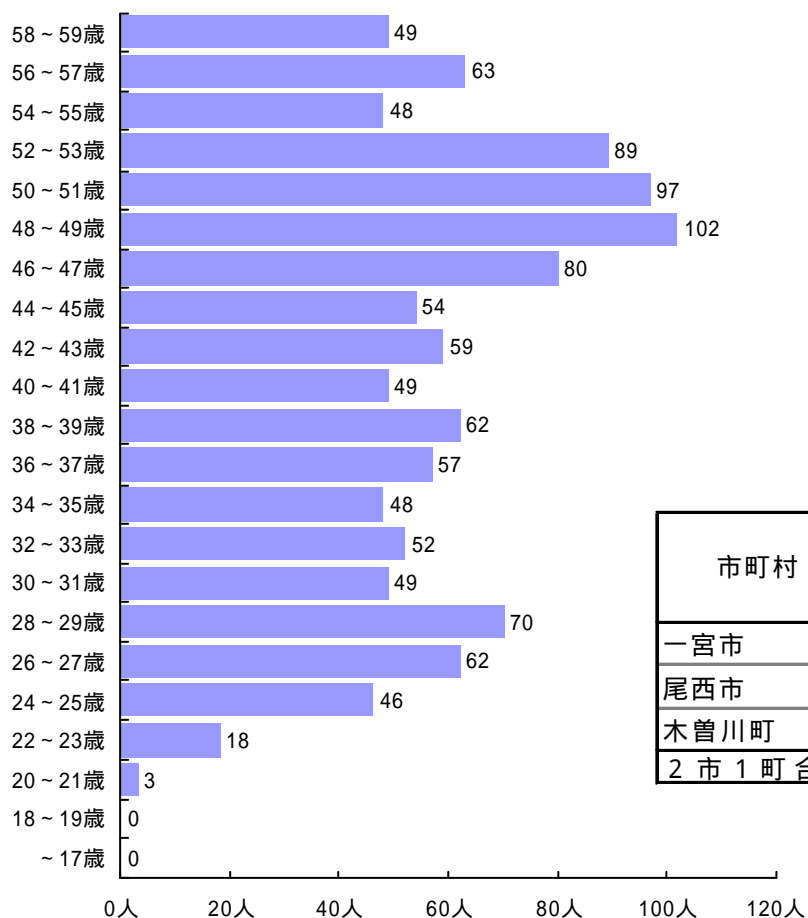
【職員】一般職員の合計は、1,157人。年齢構成は、50歳前後の年齢層と20歳台後半の年齢層が多い。

【財政】2市1町合計の歳入総額は約900億円、歳出総額は約864億円。財政力指数は、一宮市が0.79と最も高く、次いで木曽川町0.69、尾西市0.68となっている。経常収支比率は、各市町とも80%をやや上回る水準にある。

【地方分権・行財政改革】2市1町は政令市に次ぐ行政権限を持つ中核市としての要件を満たしており、住民に身近な保健・福祉などの行政サービス提供が可能となる。

【広域連携】2市1町では、基本健康診査・子宮ガン検診の広域化、保育所広域入所、地域情報化計画の策定、各市町図書館の相互利用等が行われている。また、2市1町すべてが関連する一部事務組合として、尾西地方特定公共下水道管理組合、尾張農業共済事務組合がある。

【図表】職員の状況



市町村	職員（一般行政職）	
	職員数（人）	平均年齢（才）
一宮市	820	42.4
尾西市	223	43.1
木曽川町	114	41.3
2市1町合計	1,157	42.4

平成14年4月1日現在(地方公務員給与実態調査ベース)

資料：愛知県「市町村行財政のあらまし（平成15年1月）」

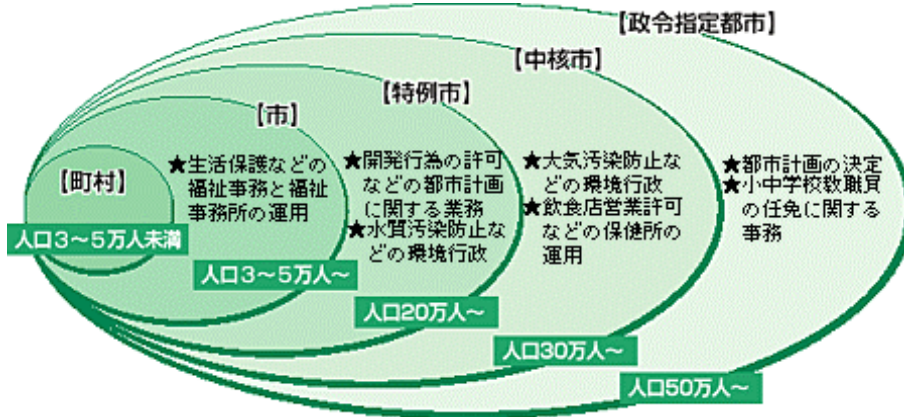
【図表】財政状況比較(13年度決算)

	標準財政規模 (千円)	歳入総額 (千円)	歳出総額 (千円)	地方税 (千円)	普通交付税 (千円)	財政力指数			経常収支比率			公債費比率 3カ年平均	自主財源比率	人口1人当たり 自主財源額(円)
						3カ年平均	経常経費 人件費充当率	経常経費 公債費充当率	経常経費 人件費充当率	経常経費 公債費充当率				
県計	1,587,094,057	2,657,560,938	2,582,675,233	1,316,102,685	127,667,474	0.92	81.3	27.3	15.1	12.6	66.2	252,428		
都市計	763,615,343	1,175,254,034	1,131,422,059	656,233,195	44,315,567	0.99	75.6	26.8	12.1	10.0	69.4	218,211		
町村計	256,092,268	391,877,100	371,137,055	177,959,320	51,810,781	0.76	76.1	26.6	11.1	8.8	61.5	215,296		
一宮市	46,312,799	65,861,767	63,583,127	33,215,092	7,769,239	0.78	81.6	27.8	14.9	11.3	61.8	146,767		
尾西市	10,274,179	16,194,592	15,478,848	6,712,124	2,664,319	0.67	80.6	30.0	14.0	11.9	52.9	146,484		
木曽川町	5,350,230	7,603,011	7,366,470	3,569,945	1,376,598	0.66	82.2	28.5	5.6	4.4	60.1	145,421		
2市1町計	61,937,208	89,659,370	86,428,445	43,497,161	11,810,156									
(県内シェア)	(3.9%)	(3.37%)	(3.35%)	(3.3%)	(9.25%)									
(同 豊橋市)	(4.74%)	(4.21%)	(4.17%)	(4.59%)	(5.62%)									
(一宮市の類似団体)														
豊橋市	75,194,939	111,797,694	107,813,259	60,471,205	7,180,631	0.85	79.3	27.5	13.4	11.2	62.9	197,009		
岡崎市	62,422,048	97,223,489	92,626,176	57,535,769	0	1.03	73.9	25.2	9.8	7.9	74.3	214,878		
春日井市	50,842,216	82,288,309	81,842,219	43,299,097	2,022,805	0.94	82.9	26.4	17.6	14.6	57.9	165,344		
豊田市	95,770,498	144,738,687	138,816,796	89,456,061	0	1.44	59.5	20.2	9.5	7.8	81.1	342,436		
(その他)														
瀬戸市	21,928,367	34,632,171	33,298,351	18,391,843	1,517,655	0.90	80.4	32.8	12.1	9.9	66.3	177,794		
半田市	22,303,806	37,513,079	36,831,427	20,001,240	694,726	0.92	87.7	25.5	17.0	15.0	66.5	223,057		
津島市	12,540,593	18,464,199	17,555,653	8,683,861	2,496,676	0.73	80.8	33.6	16.6	13.3	59.5	166,537		

資料: 県総務部市町村課「市町村行財政のあらまし(平成15年1月)」

※ 都市計は名古屋市を除く計

【図表】人口規模等による行政権限の拡大



【図表】2市1町における一部事務組合の状況

平成15年4月1日現在

組合の名称	設立許可年月日	共同処理する事務	一宮市	尾西市	木曾川町	その他
尾西地方特定公共下水道管理組合	S36.4.1	特定公共下水道事業の管きよの埋管、築造、処理場の建設その他の事業及びこれらの維持管理に関する事務				
尾張農業共済事務組合	H15.2.12	農業共済事業に関する事務				23市町

資料：愛知県総務部市町村課資料等

地域特性のまとめ

各市町とも財政状況は厳しい。
2市1町での広域連携は、従来から活発。

課題と対応方向

中核的都市としての行財政基盤の強化
地方分権の受け皿となる専門性の高い職員の養成、確保

2 2市1町のまちづくりの動向

2市1町が一体となった新しいまちづくりを進めるにあたり、それぞれの市町が掲げている将来像や、各市町のこれまでの取り組み姿勢を十分尊重していくため、各市町の総合計画に示された2市1町のまちづくりに対する課題意識を把握します。

(1) 現行の2市1町の総合計画の概要

	第5次一宮市総合計画 2001年～2010年	第5次尾西市総合計画 1998年～2010年	第3次木曾川町総合計画 1996年～2005年
将来像	「心のゆたかさ」があふれるまち	心ふれあう緑豊かな複合産業都市	新しい時代を紡ぐ水と文化と心のまち“きそがわ”
都市基盤の整備	安全で快適な魅力あふれる環境都市をめざして	ゆとりと潤いのあるまちに21世紀のまちづくり	魅力ある居住空間を生み出す生活・都市基盤の整備
生活環境の整備		やすらぎにみちた緑豊かなまちに21世紀の環境整備	水と緑の自然と人にやさしいまちづくり
保健・医療・福祉の充実	健康で人にやさしい福祉都市をめざして	しあわせな生活が営めるまちに21世紀の福祉と医療	安心と潤いのある健康と福祉のまちづくり
教育・文化の充実	個性と創造性をはぐくむ文化都市をめざして	豊かな個性をはぐくむまちに21世紀の教育と国際交流	地域から芽生える生涯学習のまちづくり
産業の振興	人の行きかう活力ある産業都市をめざして	新たな活力を生み出すまちに21世紀の地域の活性化	新しい産業の発展を見据えた賑わいのあるまちづくり
自治	都市自治の確立をめざして	住みよい信頼のできるまちに21世紀の自治体組織	地域のイメージアップ施策の展開

(参考：いままでの総合計画における将来像)

	一宮市	尾西市	木曾川町
第1次	明るく、美しく、暮らしよい大一宮市	明るく、住みよい、豊かで健康な街づくり	はたおり、文化福祉都市、緑とひかりのやすらぎの町
第2次	充実した活力と住みたくなる都市	明るく、住みよい、豊かで健康な街づくり	はたおり、文化福祉都市、緑とひかりのやすらぎの町
第3次	豊かで活力と潤いのある都市	明るく、住みよい、豊かで健康な街づくり 住まいと産業の調和がとれた都市	
第4次	やすらぎ、ぬくもり、そして夢のあるまち	住まいと産業の調和がとれた都市	

(2) 総合計画で指摘されている将来の展望と課題

地球共生時代(進む国際化と地域間交流、環境問題)

交通・情報ネットワークの発展により、人・もの・情報が国境を越えて活発に交流し、相互に依存したグローバル社会となっています。今後は、環境への負荷の少ない循環型社会を目指し、自然環境を保全し、人と自然が共生する社会を築くことが求められています。

少子・高齢時代

当該地域の総人口は、少子化の進行により、平成 22 年頃をピークに、人口減少に転じると共に、4 人に 1 人が高齢者という状態になると予想されます。そこでは、労働力が減少し、地域活力の遞減が予測されます。将来は、安心して子供を産み、健やかに育つ子育て環境づくり、高齢者や女性が能力を発揮できる就業環境づくり、いきいきと暮らせる生活環境づくりが求められます。

高度情報時代

情報通信技術の飛躍的な発展により、多種多様な情報入手や利用が容易になります。こうした IT の進展に対応し、産業、教育・文化、市民生活などの各分野における情報システムの構築や情報通信基盤の整備を図りながら、情報を手軽に利用でき、自らが発信し、世界と交流できる情報化社会の構築が求められています。

個性重視の時代(本物志向)

経済的な豊かさを背景として、精神的な豊かさや暮らしの中に個性や創造性を求める志向が強まっています。一人ひとりのライフスタイルが多様化し、スローライフと言われるゆとりある暮らしを楽しみ、本物志向の生活を楽しむ人が増えています。今後こうした、個性重視の時代に対応したまちづくりが求められています。

分権・自立の時代

地方分権の進展により、自治体の役割と責任が増大し、地域の特性を活かした魅力あるまちづくりが求められています。当該地域においても、行政改革の推進、政策形成能力の向上などにより、自治能力の向上が求められ、また、住民側のまちづくりへの意識向上や積極的な参加が求められています。行政と住民との協働による自治の確立が重要となっています。

都市化、高度化する住民生活

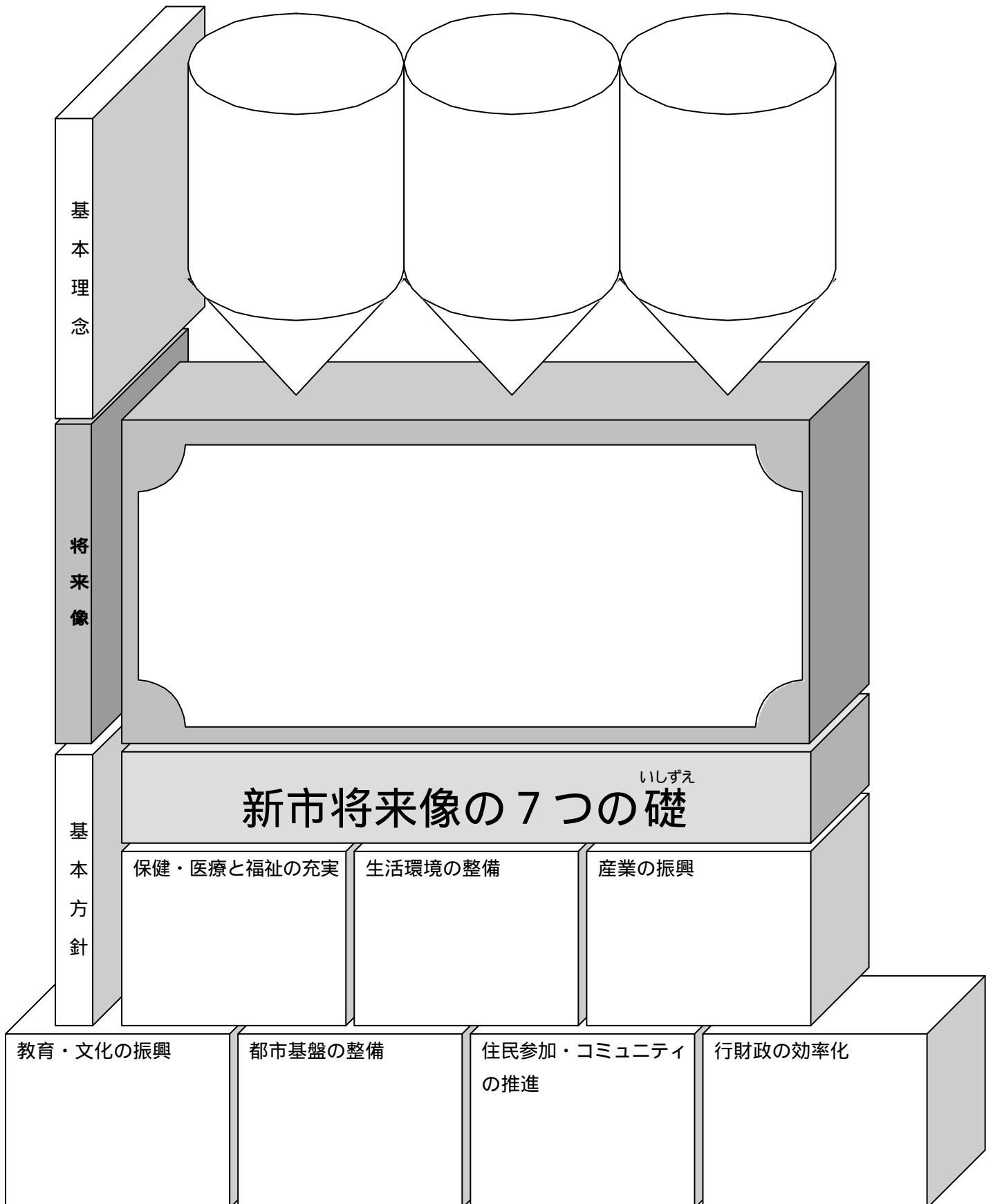
人々の中では、より都市的で快適な生活を享受したい、あるいは様々なライフスタイルを実現したいといったニーズの高度化・多様化がみられます。こうしたニーズへの対応には、社会基盤や生活基盤の一層の充実が求められますが、財政の健全性の維持も行政に課せられた重要な責務であるといえます。現在の厳しい社会経済情勢下では、事業の選択と集中により、持続可能な行政運営と住民ニーズ充足とのバランスのあるまちづくりが求められます。

厳しい地方の経済環境

バブル経済崩壊以降長期的な低迷が続き、当該地域においても、地場産業の衰退、企業でのリストラクチャリング、所得の伸び悩み等、経済環境は厳しい状況となっています。今後とも、地域の活力となる新しい産業の創出、既存産業の高度化・転換といった産業振興等が求められています。

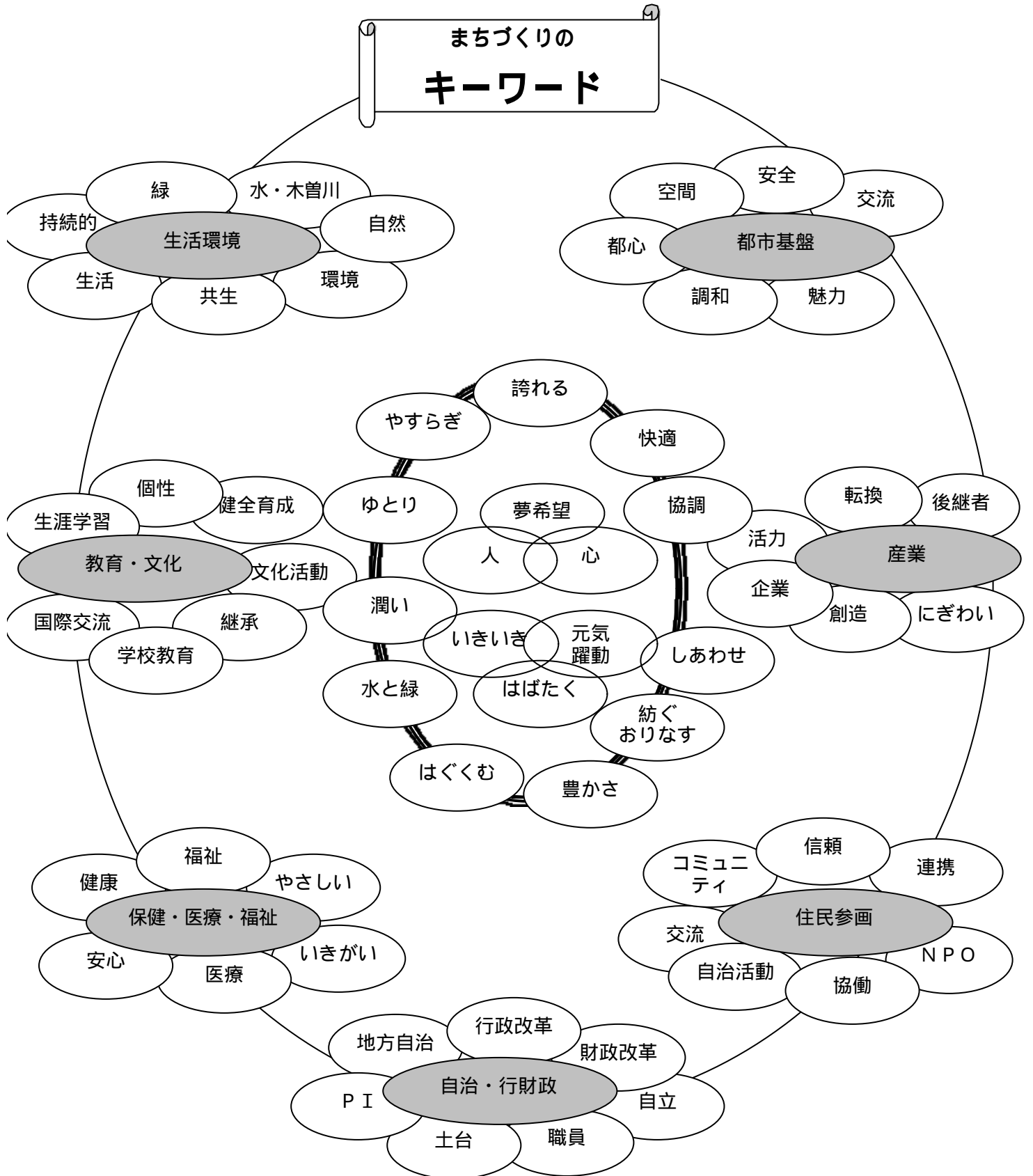
3 新市建設の基本方針

新市の将来像の体系図



将来像：新市のまちづくりのイメージを一言で表現した言葉。最も重視する事項。

基本方針：まちづくりのそれぞれの分野毎に目指すべき方向性。



新市の基本理念・将来像の検討材料

「新市を取り巻く環境」、「各市町の総合計画」等をふまえ、新市建設計画における新市の将来のまちづくりを策定するための基本理念・将来像として考えられる事項としては以下のとおりです。

「活力」

人がまちが元気になるまちづくり

テーマ

少子・高齢化、人口減少時代への対応
地域活力向上のための産業振興
次世代を担う人材づくりとしての教育改革
中核都市にふさわしい求心力

合併を契機に、人がまちが元気になるまちづくりを目指します。

人が元気になることにより、まちが元気になります。
まちが元気になることにより、ひとが元気になります。
人・まちを元気にするため、
少子・高齢化、人口減少時代への対応を進めます。
地場産業の高度化、新産業の創出、雇用の確保等を進めます。
学校教育を充実させ、生涯学習を推進していきます。

< 求められる施策例 >

住環境整備事業、子育て支援事業、産業振興施策、中心市街地活性化、
教育改革、生きがい創出事業 等

「継承」

魅力ある資源や伝統を継承し、新たな交流と創造を生むまちづくり

テーマ

歴史・文化資源の保全と活用
地域特性を活かしたまちづくり（木曾川 他）
情報発信力の強化：ブランドの創出

合併をしたとしても、これまで築いてきた歴史を大切にしたいまちづくりを目指します。

先人たちが築き歩んできた道の上に我々がいます。合併したとしても、地域の魅力ある歴史・文化・伝統を認識し、後世に伝えていく必要があります。

また、歴史・文化・伝統だけでなく、木曾川、地場産業、居住環境、道路ネットワークなど、新市には自然資源から自分たちの手で作り上げてきたさまざまな魅力ある資源があります。

こうした地域特性をさらに磨きをかけ、ブランドを創出し、情報発信力を持った、新たな交流と創造を生むまちづくりを進めます。

<求められる施策例>

歴史文化財の保存と活用、国際交流事業、木曾川と緑を活用したまちづくり、等

「安心」

ゆとりある暮らしができるまちづくり

テーマ

医療・福祉の充実
安心・安全のまちづくり
（防災・防犯、交通安全対策）
スローライフ：ゆとりある暮らしづくり
人に優しいまちづくり：ユニバーサルデザイン、
バリアフリー

新市のすべての住民が、安心して、健康で、豊かな生活をおくることができるまちづくりを目指します。

そのためには、医療・福祉の充実が必要となります。また、道路、上下水道といった社会インフラの充実が必要となります。また、風水害・地震等の対策も求められます。

こうした生活環境整備が図られ、ゆとりある、豊かな暮らしができるよう、まちづくりを進めます。

<求められる施策例>

高度医療ネットワーク事業、高齢者・障害者福祉、都市基盤整備事業 等

「共生」

人と自然が共存できる地球環境に
配慮した循環型社会を目指したま
ちづくり

テーマ

自然との共生
循環型社会の構築
地球環境時代への対応：省資源、省エネルギー
コンパクトシティ

貴重な自然を破壊することなく、共存・共生したまちづくりを目指します。

我々の行動範囲もグローバル化しつつあることから、地球環境に配慮し自然エネルギーを有効に活用するといった対応が求められます。

新市のまちづくりには、持続的な発展が出来るよう、地球に優しい循環型社会の構築を進めます。

< 求められる施策例 >

自然資源の保存、河川の浄化・美化、環境基本計画の策定、
ごみ対策（処理）事業、リサイクル事業 等

「協働」

自立と参加によるパートナーシップ
の構築を目指したまちづくり

テーマ

コミュニティの活性化
住民参画、NPO支援
住民への情報提供・住民意見の反映
地方分権：行財政改革

良好なコミュニティの形成を図ることで、地域の連帯感を育み、自分のまちに愛着や誇りを持てるまちづくりを目指します。

今後は、これまでの行政だけに頼った体制から、住民と行政とのパートナーシップ（協働）の意識を大切にしながら、NPO、ボランティアといった形での住民参画を進め、行政側は行財政改革を行い、住民と行政が共に力を合わせ、自立したまちづくりを進めていきます。

< 求められる施策例 >

住民参画条例の策定、NPO支援制度の策定、情報公開の促進、
財政の健全化、行政評価・事務事業評価 等

「自立」

地域間競争下での自己決定に基づく責任ある運営によるまちづくり

テーマ

地方分権：行財政改革
地域間競争
自己決定

自由な発想のもと、自立したまちづくりを目指します。

地方分権の推進の中で、地方自治体は、地域の特色を活かしながら、都市としての魅力を伸ばし、地域間競争に生き残っていく必要があります。合併することで、これまで国や県の責任であった権限を譲り受けることで自己決定権を拡充し、住民が望む専門的かつ高度なサービスを、これまで以上に提供できる力をつけ、情報公開の中で住民参画を促しながら責任ある行政運営ができるよう行財政改革を進めます。事業の選択も住民の責任ある判断を求めながら実施します。

<求められる施策例>

行政評価・事務事業評価、地域自治運営プログラム、アダプトプログラム 等

「契機」

合併を契機に、効率的な地域経営を目指したまちづくり

テーマ

選択と集中
費用対効果
地域経営

合併を契機にこれまでの無駄を省き、効率的な地域経営を目指したまちづくりを展開します。

合併することで、広域的な視点からまちづくりを展開することができます。つまり、これまでのバラマキ型の事業実施から、住民にとって最も効果の高い事業を選択する、費用対効果を考慮した、総合的な施策の展開が可能となります。効率的な地域経営を目指します。

<求められる施策例>

事務事業評価、地域自治システム、アウトソーシング、PFI事業導入 等

基本方針

新市を取り巻く環境と2市1町のまちづくりの動向から、まちづくりの基本方針を分類すると、次のようなことがあげられます。

保健・医療、福祉の充実

- ・ 少子高齢化への対応
- ・ 健康増進
- ・ 安心していきいきとした暮らし など

生活環境の整備

- ・ 豊かな自然との共生
- ・ 環境にやさしい循環型社会の構築
- ・ 快適な生活環境
- ・ ゆとりある住宅環境 など

産業の振興

- ・ 繊維産業の活性化
- ・ 新規産業の創出・誘致
- ・ 商店街振興 など

教育・文化の振興

- ・ 個性ゆたかな子どもたちを育てる
- ・ 自由に学び、楽しむ
- ・ 生涯学習・生涯スポーツ振興 など

都市基盤の整備

- ・ 尾張地域の中核的な都市機能
- ・ 新市の一体性を高める交通基盤・情報基盤の充実
- ・ 人やモノ・情報が集まるまち など

住民参加・コミュニティの推進

- ・ 市民参画を推進
- ・ 住民によるまちづくり
- ・ NPOとの協働 など

行財政の効率化

- ・ 自立性の高い財政の確立
- ・ 健全で効率的な行財政運営 など

4 新市の施策

新市の将来像「 」を実現するための施策を以下のように定めます。（新市を取り巻く環境の中で捉えられた良い面を伸ばし、課題を克服する施策を重点的に取り上げます。）

2 市1町のまちづくりの動向から、施策の方向性としては、次のようにまとめることができます。

施策の方向性

（1）保健・医療、福祉の充実

保健予防の充実、健康づくりの推進
医療体制の充実
地域福祉の向上
児童福祉の向上
高齢者福祉の向上
障害者（児）福祉の向上
母（父）子福祉の向上
低所得者福祉の向上
介護保険への対応
国民健康保険事業の推進 など

（2）生活環境の整備

消防・防災体制の充実
交通事故防止対策の推進
防犯体制の充実
住宅等の整備
公園緑地の整備
ごみ処理体系の確立及び施設整備
し尿処理体制の充実
上水道事業の推進
下水道事業等の推進 など

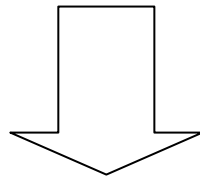
（3）産業の振興

農水産業の振興
工業の振興
商業の振興
観光・レクリエーションの振興
地域振興拠点の整備 など

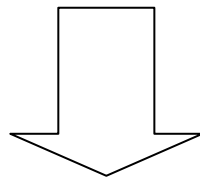
- (4) **教育・文化の振興**
 - 学校教育の充実
 - 生涯学習の推進
 - 地域文化の振興
 - スポーツ文化の振興 など
- (5) **都市基盤の整備**
 - 交通体系の整備
 - 市街地の整備
 - 河川及び周辺の整備
 - 土地利用の推進 など
- (6) **住民参加・コミュニティの推進**
 - 自治会
 - 住民参画・協働・NPO
 - 国際交流
 - 男女共同参画 など
- (7) **行財政の効率化**
 - 行政改革
 - 財政改革 など

5 公共施設の適正配置と整備

現状を把握し、



問題点を洗い出し、



方針を打ち出します。

6 財政計画作成方針

財政計画作成にむけての方針について、
「前提条件」、「計画期間」、「作成要領」にわけて、示します。